

日ニ讓リテ可ナリ内務省ニ於テ工事ヲ直轄施工スルノ勞ヲ執ル間ハ港口ニ三十尺二十五尺ノ水深ヲ得ラル、コトハ確實ナレトモ一朝工事ヲ引渡サル、トキ縣又ハ市ハ能ク之レヲ維持シ得ルヤ否換言スレハ三十尺二十五尺ノ維持浚深ハ難事ニアラサルヤ否經濟的ナルヤ否ハ大ニ考慮ヲ要スル興味アル問題ナラン而シテ是カ解決ニハ先ツ以テ諸工事成功ヲ告クルノ日ヲ待チテ後港口カ冬季約百日間ニ於テ何ナル深サマテ淺メラル、ヤ其土沙量ハ幾何ノ高ニ登ルヤ是等ノ點ヲ精細ニ調査セサルヘカラス兎ニ角港口ノ有效水深確定セサルニ聯絡設備ヲ急クコトハ責任ヲ重ンスルノ處置ニアラサルヘク生ハ其理由ヲ見出シ能ハサルナリ

以上粗言多罪(完)

工學博士 中山秀三郎

新潟港ノ運命ハ信濃川河口ニ於ケル水深維持ノ難易如何ニ存シ同河口ノ如キ感潮少ナキ處ニ於テ水深維持ノ解決ハ至難ノモノナリ著者ハ多年親シク信濃川河口改修工事ニ従事セラレ同工事ニ關スル有益ナル諸種ノ材料ヲ詳細ニ報告セラレタルノミナラス細密ナル觀測ト周到ナル研究トノ結果ニ依リ同河口ノ水深維持ニ關スル難問ニ對シ快斷ヲ與ヘタル余ハ之レヲ閱讀シ最有益ナルモノト感スルト共ニ著者ノ勞ヲ謝スルコト大ナリ今ヤ更ニ著者ヲ煩ハスハ思ハサルノ甚シギニ似タレ雖左記數項ニ關シ若シ著者ニ於テ嘗テ調査研究セラレタルモノアレバ之レヲ知ラント欲スルモノ豈獨リ余ノミニ止マラン著者ノ好意ト筆勞ヲ待ツヤ切ナリ

一 突堤工事實施ニ當リ河口ノ位置ハ計畫當時ヨリ東方ニ移動スルコト頗ル著シク明治二十五

年ヨリ同三十一年ニ至ル六年間ニ約四百間ニ及ヒ突堤ノ位置ヲ變更スルノ必要ヲ生シタル旨  
報告アリタリ此河口東遷ハ或ル期間之レヲ繼續シ河口屈曲甚シキニ至リ出水等ノ爲メ復歸ス  
ル週期性ノモノナルヤ或ハ白山浦ヨリ河口ニ至ル河狀整制工事ノ結果ニヨリ促進セラレタル  
モノナルヤ河口改修工事以前ノ河口ノ變遷ハ如何ナル性質ノモノナリシヤ

一 突堤築造後十七年間西突堤以西ノ海岸及沿岸ノ水底ニ著シキ變動ヲ生セサル趣ナルカ之レ  
ヲ或ル一定期間假令ハ夏期ト冬期ト區別シ此間ニ増進減退ノ變動ナキヤ又東突堤以東ノ海岸  
ハ突堤築造後如何ナル變動ヲ生セシヤ

一 著者ハ西突堤以西ノ海岸及沿岸ノ水底ニ著シキ變動ヲ生セサル原因ヲこんぺんせーしん  
かーれんとノ存在ニ歸シ其最著シキ例トシテ管テ西突堤ノ工事中堤上ノ杭打機カ西風波浪ノ  
洗フ所トナリ櫓ハ遂ニ流レテ其形ヲ認メサルモ鐵材ヲ以テ重クシタル槻製もんきーハ暴風怒  
濤ヲ潜ツテ風上ミニ流レ突堤西十數町ノ海岸ニ漂著セシ事實ヲ以テセリ著者ノ稱ヘラレタル  
こんぺんせーしんかーれんとハ強風ノ爲メニ生スル表流ヲ平衡スル爲ニ生スル潜流ノ意  
味ナルカ又杭打機ノ轉覆シタルトキヨリもんきーノ海岸ニ打上ラレタル迄ニ幾何ノ時日ヲ要  
セシヤ其間風向風速等ニ變化ナカリシヤ

一 第一圖ニ浚渫海之部ト記入セル區域ハ其大部分ハ突堤防禦區域以外ニアリ著者ハ其報告末  
尾ニ於テ之レヲ豫定ノ水深ニ浚渫シ附近海底其平衡ヲ保ツニ至レハ港口水深ノ維持蓋シ難事  
ニアラサルヘシト結ハレタリ此非防禦區域ハ門洲ノ一部ナルヲ以テ信濃川附替以後ハ漸次門  
洲消滅シ附近海底ト共ニ三十尺以上ノ水深ヲ保持シ得ヘキ區域ト認メラル、ヤ或ハ年々相當  
ノ維持浚渫ヲ要スヘキ區域ナルヘキヤ(完)